

溶接ニュース

産報出版株式会社
東京本社(〒101-0025) 東京都千代田区神田佐久間町1-11
東京支社(〒100-0001) 東京都千代田区千代田1-1-1
大阪支社(〒556-0016) 大阪府東淀川区元町2-8-9
福岡支社(〒815-0840) 福岡県東区東区元町2-8-9
電話:03-3256-6411 FAX:03-3256-6430
関西支社(〒556-0016) 大阪府東淀川区元町2-8-9
東京支社(〒100-0001) 東京都千代田区千代田1-1-1
電話:06-6633-0720 FAX:06-6633-0840
年購読料:25,633円(税込)

切断・溶接・ガスの
トータルソリューション
日酸TANAKA
https://nissantanaka.com/

日産自動車 栃木工場に新溶接工法

新開発の「ディンプル溶接」導入

日産自動車は10月8日、同社が構築した「ニッサンインテリジェントファクトリー」を、国内ではじめて導入した栃木工場(栃木県上三川町)の生産ラインを公開した。スポット溶接に代わるディンプル溶接を採用するともに、「人とロボットの共生をテーマに、溶接工程から搬送、組付、検査とロボットを最大限に活用。次世代型工場として注目が高まる。」

60度カメラで工場内の中心に位置。製造、車軸、車面工場を持つ。栃木工場は上三川町一貫生産工場。敷地面積約100万平方メートル。

「ディンプル」と呼ぶロボットをラインに設置。「溶接後の塗装品」の向上につながった。「ディンプル溶接」を「ディンプル溶接」を開発した。「従来の抵抗溶接では電極の設置面積をパネルに設ける必要があった。ディンプルを設けることで電極の小型化につながり、フロントトビラーの幅を従来比で5割削減し、ドライバの視界向上につながった。」(平田植治・常務執行役員車両生産技術開発本部)



ディンプル溶接のライン

積29.3万平方メートル、建物面積83万平方メートル、従業員数5200人。一周6・5キロのテストコースを敷地内に持ち、太陽光など再生可能エネルギーを活用する。今回の新型ライン構築の背景には、「かつ」感がある。同社の掲げる「人とロボットの共生」を実現するために、人とロボットの協働を最大限に活用し、生産性を向上させることを目指している。女性活躍推進策として、「女性活躍推進」を推進している。

日本溶接協会は10月21日、延期としていた「第66回全国溶接技術競技会中部地区三重大会」(主催・日本溶接協会、中部地区溶接協会、三重県溶接協会)を2月19・20日の2日間、JFREインシニアリング津製作所(三重県津市)で開催すると発表した。19日に選手・関係者の受付、競技会場の事

全国競技会、開催日、会場

溶接事業所の 創意工夫

「こんなものがあれば溶接しやすい」。微細なティグ溶接を手掛けるハイド(大阪府八尾市)

難溶接に対応して独自に開発

横山英文社長は自らの仕事(溶接)を容易にするため、溶融池を見ながら指でダイヤルを回して電流値を調整する「TIGCON」(ティグコン、特許取得済)を開発。同装置を取り付けたティグ溶接トーチを使って横山社長は様々な難溶接を可能にしている。



「TIGCON」を持つ横山社長

「高さを0.1mm上げた」「0.3mmの針金をクロスして溶接してほしい」といった難溶接の依頼にこたえるため。開発のきっかけは、「高さを0.1mm上げた」「0.3mmの針金をクロスして溶接してほしい」といった難溶接の依頼にこたえるため。

「知識はネットでいくらでも手に入る。そこからは自分の感性」とし、これまで培った溶接に対する経験が開発のベースになっていることをほのめかす。そんな横山社長の本業は、あくまで「ティグ溶接士」。腕を磨くため、液体が入ったままのスティール製の底を中身